

G7 外相声明

テロ組織 I S I L / D A E S H との戦いのための共同行動

2014年9月25日、ニューヨーク

我々カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、英国、米国の外務大臣及びEUの上級代表は、一致して、I S I L との名称で活動しているテロ組織の残虐な暴力、憎悪及び不寛容を非難する。I S I L は、イスラム及び人間にかかる基本的価値を否定し、イラクとシリア、及び、我々の社会を含むより広範な中東及びそれを超える地域に対し、致命的な脅威を与える。我々は、国連安保理決議2170（2014年）へのコミットメントを再確認し、I S I L 又はその関連の個人及び組織によって人質となっている者の即時、安全かつ無条件の解放を要求する。

過去数週間の地域及び世界中で行われきた会議において、指導者らは、I S I L との戦い及び人道的惨事の防止のための包括的なアプローチに合意した。我々は、I S I L を弱体化させ、壊滅させるためのこうした包括的かつ連携された長期的取組を支持する。この観点から、我々は米国及びその他の国がとった軍事行動は、イラクがI S I L から防衛し、I S I L に対して安住の地を与えないことを助ける重要な貢献であると認識する。難民及び避難民への人道支援は、彼らが帰還できない限り最重要事項である。これを実現するために、我々はI S I L の軍事力、資金及び戦闘員へのアクセス、及びI S I L の暴力的過激主義及びリクルーティングによる影響に対処しなければならない。また、我々はイラク及びシリアにおいてI S I L と対峙している穏健派勢力を支援する必要がある。こうした取組を強化するために、我々は、域内の安全と安定のための政治対話、及び、テロ対策に対して建設的な貢献を行う意思を有する国々とのより構造化された交流を実現するためのプラットフォームの創設を追求する。

我々は、新しいイラク政府に対する支持を確認し、アバーディー首相がすべてのイラクの男女の利益を代表し、これを守る、国家を一体化させる政府の国家プログラム及び包括的な政策を早期に策定及び実施することを奨励する。我々は、イラクの更なる安定のための支持を呼びかけるとともに具体的な貢献を追求するよう、いまだこれらを行っていないこの地域のすべての国々に対し求める。

我々は、包括的な政治対話、国民和解及び地域対話を進展させるためのニコレイ・ムラデノフ国連事務総長イラク特別代表による努力を支援する。我々は、国連安保理においてエンドースされたジュネーブ・コミュニケに基づくシリアの政治的移行の必要性を再確認する。また、シリアにおける危機に対する政治的解決の展望の再開へのスタファン・デミストウラ・国連事務総長シリア特使による努力を賞賛する。

我々は、シリア及びイラクに安定が戻り、すべての民族及び宗教団体が平和的に共存できるようコミットしている。我々は、イスラム教徒の指導者がI S I Lの不寛容、憎悪及び暴力のメッセージに対して明確な立場をとっていることに歓迎する。

我々は、I S I Lを後退させ打倒するための、訓練及び装備品を通じたものを含む、治安の改善に向けたすべての貢献を歓迎する。我々は、現場でI S I Lに対峙しているイラクの中央及び地方政府の治安部隊、及び、シリアの穏健派反対勢力を賞賛する。

我々はI S I Lのテロの被害者に支援を提供し、国連及びその他の国際機関と緊密に連携し、引き続き人道支援を行っていくことにコミットし続ける。我々は、冬季に掛けて人道的対応を強化するためのすべての努力を行うとともに、多数の国内避難民及び避難民の住居の提供及び受入れを行っているイラク国内のホスト社会及びこの地域の周辺国による並外れた努力を完全に認識する。

最後に、I S I Lに戦闘員や資金が流入することを妨害し、防止するためには、断固とした措置を喫緊にとるべきである。我々は、グローバル・テロ対策フォーラム（G C T F）の外国人テロ戦闘員へのより効果的な対応のためのハーグ・マラケシュ文書の採択を歓迎し、テロ行為による国際的な平和と安全への脅威に関する安保理決議2178号の採択を歓迎する。また、我々は、G7ローマ・リヨン・グループがイラクとシリアへの外国人テロ戦闘員と資金の流入に取り組むための具体的なイニシアティブを策定するよう要請した。この観点から、バーレーン政府が発表したテロ資金対策に関する国際会議は大変歓迎されている。